

富士山と川越百景

富士山が世界文化遺産へ登録されました。古くから山岳信仰の対象とされてきた富士山。かつて市内には、富士山を模した富士塚がいくつも作られ、気軽に富士登山の疑似体験ができるようになっていました。川越百景に選定されている富士見町の浅間神社、小中居の神明神社、新宿町の氷川神社にも富士塚があります。

富士山は、市内でも見ることができると身近な山です。同じく川越百景の一つである、安比奈親水公園や川越水上公園からは、雄大な富士山を望むことができます。そのほか寺尾調節池や上江橋など、実際に富士山が望める場所がいくつもあります。また、川越百景以外でも、富士山はその美しい姿を見せてくれます。冬場にかけて、空気が澄んでいる日は、絶好の「富士見日和」となります。通勤・通学や買い物途中に見える美しい富士。そんな富士見スポットを探してみませんか。



水上公園近くから望む冬の富士山

川越百景の写真募集中

募集期間…来年7月31日(休)まで
 応募方法…市ホームページの応募フォームから写真データ(ファイル形式はJPEG・2MBまで)を添付
 *プリントアウトした写真での応募はできません。
 *「川越百景」については、市ホームページをご確認ください。



埼玉青大丸ナス

古くから日本人の生活になじみの深い野菜だったナス。

を聞くと「実がしまっていて、しっかりとした食感が味わえるため、ステーキがいいですね」。厚めに切って皮を剥いたらあく抜きをし、油をひいたフライパンで焼いて、最後にしょうが、醤油、鰹節をかけると絶品だそうです。

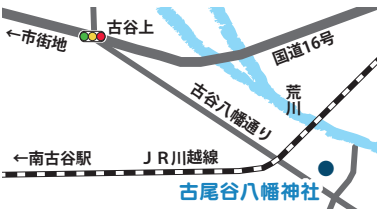


紫色の色素が少ないため、身は薄い緑色。ソフトボールほどの大きさが収穫の目安。

ス。明治の頃から県内で栽培されていた丸ナスの一種に「埼玉青大丸ナス」があります。

笠幡でこの品種を栽培している増淵勝人さんは、「ヘタのトゲが硬いので、収穫後はひとつひとつ手作業で取り除いています。昔から地元で栽培されてきた野菜を皆さんにもっと知ってもらいたいです」と話します。一般的な紫色のナスと違い、実は薄い緑色で巾着型をしているのが特徴です。また、その見た目から「白ナス」とも呼ばれています。増淵さんにお薦めの調理法

増淵さんの畑で採れた埼玉青大丸ナスは市内の一部スーパーに9月末頃まで出荷される予定です。食べごたえがあり、食が進むこと請け合いの1品を食卓に添えてみてはいかがでしょうか。



県

の有形文化財(建造物)に指定されている古尾谷八幡神社の社殿は、平成27年の完成に向け、現在修復中です。今年には既に修復が済んだ社殿の一部を見ることができそうです。

の有形文化財(建造物)に指定されている古尾谷八幡神社の社殿は、平成27年の完成に向け、現在修復中です。今年には既に修復が済んだ社殿の一部を見ることができそうです。

編集後記

どんぐり

ほ

ろ祭りは、県指定無形民俗文化財で、毎年9月の敬老の日の前日に古尾谷八幡神社で行われている地域の伝統行事です。背負いかごに36本の竹ひごがついたほろを背負う様子から「ほろかけ祭り」とも呼ばれています。ほろを背負う男の子は、ホロシヨイツコと呼ばれ、太鼓に合わせてほろをゆらしながら練り歩きます。周りの大人が声を掛けながら見守る中、鮮やかなピンク色のほろが揺れる様子は、祭り一番の見どころです。

